

高校公民プリント（過去問類似）
公共（2025年～の共通テスト本試験） No.5

名前

得点

/9

問1 自らの文化の基準を絶対的なものとし、自分たちの文化が他よりも優れていると考えて他者の文化を評価・判断しようとする態度や心情を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. ユーロセントリズム 2. オリエンタリズム 3. エスノセントリズム 4. アカルチュレーション

問2 第二次世界大戦後の日本を代表する政治学者・思想史家であり、日本の思想状況について、外来の様々な思想が歴史的な対決や統合を経ることなく、新旧の思想がただ並列的に共存している状態を表現して批判的に分析した人物は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 吉本隆明 2. 鶴見俊輔 3. 丸山真男 4. 大塚久雄

問3 国際情勢の緊迫化や異常気象などによる不測の事態が生じた際にも、海外からの輸入が途絶することに備え、自国に必要な食料を確保・供給できるようにする取り組みや状態を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 食料管理制度 2. 農業保護政策 3. 食料安全保障 4. 地産地消運動

問4 社会保障の国際比較において、租税負担と社会保障負担を合わせた国民負担率が非常に高く、手厚い社会保障制度が整備されている「高福祉高負担」の代表的な国として知られる国がある。この国では、老後の生活保障や医療・介護などの公的支援が充実しているため、老後に備えて個人が職業能力を向上させるといった自助努力を行う比率が、アメリカや日本などの他国に比べて相対的に低い傾向にある。この特徴を持つ北欧の国はどこか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. スウェーデン 2. ノルウェー 3. フィンランド 4. デンマーク

問5 新プラトン主義の哲学者プロティノスや使徒パウロの影響を受け、キリスト教神学を大成した古代の思想家がいる。彼は、地上の芸術や自然などの「作られた美」はすべて美の源泉である神に由来するが、人間がその被造物の美そのものに執着することは、真の目的である神への愛から遠ざかる畏になり得ると警告した。この思想家は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ヒエロニムス 2. アンブロシウス 3. アウグスティヌス 4. テルトウリアヌス

問6 災害などの危機的状況に直面した際、生じている異常事態を日常の範囲内の出来事として過小評価し、「自分は大丈夫だ」と思い込んで避難などの適切な行動を遅らせてしまう心理的傾向を何というか。国や自治体には、こうした傾向の影響をできるだけ抑えた判断を促すため、公的な情報の利用を容易にするなどの環境整備が求められている。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 生存者バイアス 2. 楽観的バイアス 3. 悲観的バイアス 4. 正常性バイアス

問7 ドイツ出身の政治哲学者ハンナ・アーレントは、人間の能動的な生を、生命維持に必要な消費財を生産する「労働」、耐久的な使用価値を持つ事物を製作する「仕事」、そして他者との関わりの中で展開される政治的営みの三つに分類した。このうち、複数の人間が言葉と行為を介して公共空間で直接働きかけ合い、自らの個性を現し合う営みを何と呼ぶか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 仕事 2. 労働 3. 活動 4. 観照

問8 ジェンダーギャップの解消や多様性の確保を阻む要因として、個人が自覚しないまま「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」といった固定的な役割分担を正しいと捉えてしまう心理的な傾向を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. アンコンシャス・バイアス 2. フレーミング・エフェクト 3. ハロー・エフェクト 4. ピア・プレッシャー

問9 ある地方自治体が体育館の起工式において、神職を招いて神道式の儀式を行い、その費用を公金から支出した行為について、最高裁判所が「目的が世俗的であり、特定の宗教を援助・助長・促進する効果を持たない」として、憲法第20条の政教分離原則に違反しない（合憲）と判断した判例を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 自衛官合祀訴訟 2. 箕面忠魂碑訴訟 3. 津地鎮祭訴訟 4. 愛媛玉串料訴訟

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 3 エスノセントリズム	自分たちの文化が他よりも優れているとみなす態度は、日本語で「自民族中心主義」とも呼ばれる。この態度に陥ると、他文化の独自の価値を理解することが困難になり、偏見や摩擦を生む原因となる。これに対比される概念として、各文化をその文脈において理解しようとする「文化相対主義」がある。
問2	答え 3 丸山真男	日本の思想史において、外来の思想が歴史的に蓄積・体系化されず、新旧の思想がただ「雑居」している状態を批判的に分析した。著書『日本の思想』などで知られ、戦後民主主義の思想的支柱となった。
問3	答え 3 食料安全保障	国際的な紛争や災害などによって農産物の輸入が滞るリスクに対処するため、国内の農業生産力を維持・向上させ、国民に必要な食料を安定的に確保・供給できる状態を維持することを目指す考え方である。近年、食料自給率の低下や地球温暖化に伴う不作などを背景に、その重要性が改めて議論されている。
問4	答え 1 スウェーデン	高福祉高負担の福祉国家として知られる北欧の国に関する問題である。この国では、高い国民負担率を背景に、医療や教育、介護などの社会保障制度が極めて充実している。そのため、老後の生活や失業時のリスクに対して個人が私的に多額の備え（職業能力の向上や私的年金など）をする必要性が、アメリカや日本などの「低福祉低負担」あるいは「中福祉中負担」の国々に比べて相対的に低くなっている。
問5	答え 3 アウグスティヌス	プロティノスの新プラトン主義や使徒パウロの思想を吸収し、キリスト教神学を体系化した教父アウグスティヌスは、著書『告白』などで美と神への愛について論じた。彼は、地上の美しいものはすべて神の美の反映（作られた美）であるが、人間がその被造物の美自体に溺れてしまうことは、美の創造主である神への愛を忘れることにつながると警告した。
問6	答え 4 正常性バイアス	災害時において、危険が迫っているにもかかわらず「大したことはない」と事態を過小評価してしまう心理的傾向を正常性バイアスと呼ぶ。避難行動の遅れを防ぐためには、個人が自身の初期判断の誤りに客観的に気づけるよう、信頼性の高い公的情報へ迅速にアクセスできる環境を整えることが重要である。
問7	答え 3 活動	アーレントは『人間の条件』において、人間の能動的な生（ヴィタ・アクティヴァ）を「労働」「仕事」「活動」の三つに区別した。肉体の生命維持のための「労働」や、人工的な世界を構築する「仕事」に対し、他者の存在する公共空間において言葉と行為を通じて自己の個性を現し、他者と直接関わり合う政治的営みを「活動」と呼んだ。アーレントは、この「活動」において人々が多様な視点（複数性）を認め合うことが、人々を孤立させ画一化する全体主義への対抗策になると考えた。
問8	答え 1 アンコンシャス・バイアス	個人の意思決定や他者への評価において、自覚のないまま性別や属性に基づいた偏った見方をしてしまう現象を指す。これが社会的な慣習や制度と結びつくことで、雇用や昇進における不平等、家庭内での役割分担の固定化などを引き起こす背景となるため、その存在を自覚し解消していくことが求められている。
問9	答え 3 津地鎮祭訴訟	1977年の最高裁判決において、市が主催した神道式の起工式（地鎮祭）への公金支出が争われた。最高裁は、国家と宗教の関わり合いが信教の自由の保障の趣旨に照らし、相当とされる限度を超えるものかどうかを判断する基準として「目的効果基準」を提示した。この儀式は世俗的な目的で行われ、特定の宗教を援助・助長する効果を持たないため、憲法第20条第3項の禁止する「宗教的活動」には当たらない（合憲）と判断された。これに対し、愛媛玉くし料訴訟や空知太神社訴訟などでは違憲判決が下されている。